横浜キネマ倶楽部
第４６号　会報
2017年6月17日発行

第４６回上映会

父を探して

THE BOY AND THE WORLD

アレ・アブレウ監督作品
2013年／ブラジル／カラー／80分／ブルーレイ上映

2017年6月17日（土）

［上映時間］　①１１：００　　②１４：１０
［講　　演］　１３：００～１４：００
山村浩二氏　　東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻教授
特別上映 東京藝術大学学生作品 短編４作品を上映
①12:25　②14:00
『きつね憑き』『くちゃお』『就活狂想曲』『コップの中の子牛』

［会　　場］　横浜市南公会堂

［アレ・アブレウ監督］

1971 年、サンパウロ生まれ。13 歳のときにアニメーションのワークショップを受講。その後、アニメーション制作に携わるようになる。広告映像やイラストレーションなどを手がけながら、2008 年『Cosmic Boy』を監督。短編作品も広島国際アニメーション映画祭ノミネートなど、高い評価を得ている。『父を探して』は長編第二作目となる。

［フィルモグラフィー］

2013 年　THE BOY AND THE WORLD（『父を探して』）※長編第2作
2009 年　VIVI VIRAVENTO　※短編
2007 年　PASSO　※短編
　　COSMIC BOY　※長編第 1 作
　　★ブラジルアカデミー賞最優秀,長編アニメーション賞受賞
1998年　SCARECROW　※短編

［アレ・アブレウ監督インタビュー］

☆この映画のメッセージはポジティブなものですが、アニメ化して、メッセージを的確に表現することは、とても骨の折れるプロセスで大変な作業でした（笑）。観客には、無限の可能性を秘めたまっさらな紙の前に、単に座っているだけではないという感覚を味わってもらいたかったのです。デジタル制作の部分でこれを実現するために、デジタルデザインの第一稿を印刷して、ライティングボードに置きました。イラストを別の紙にコピーして、新たに描いたものをスキャンしてコンピュータに入力し、アフターエフェクトや他の機器を使って、動作の部分を補いました。 デジタルで制作した部分にも、手描きの味を持たせたかったのです。

☆この映画は政治や環境に関する問題から生まれたため、従来のアニメ業界の手法には従わずに済んだのです。一方そのために、現在のアニメ業界とは正反対の、インディペンデントで過激ともいえる方法で、制作せざるを得ませんでした。私がこの映画を制作した方法そのものが政治的なメッセージなのです。表現の自由を求める叫び、従来の主流派のやり方との決別、巨大なアニメ産業が私たちの息の根を止めようとしていることへの嘆き、そして現在のアニメ産業からの独立を求める叫びなのです。つまりこれは、アニメーションのクリエイティブな可能性についてのメッセージなのです。

「父を探して」を彩る音楽たち

Willie Whopper （ブラジル音楽愛好家　Barzinho Aparecida オーナー）
作中の楽曲を手掛けたのはサンパウロ出身のルベン・フェフェールとアルゼンチン人でサンパウロに拠点を持つグスタヴォ・クラートの 2 人だ。どちらも音楽学校の講師であり、普段から舞台音楽や子どもの為の音楽プロジェクトに関わっている経験を買われてこのプロジェクトに参加した。全てが彼らのオリジナルで、これらはブラジル各地の旋律、例えばアマゾンのインディオの民謡やアフリカ由来のバイーアのリズム、そしてイエズス会が持ち込んだ宗教曲などがモチーフとしている。

彼らの楽曲を実際に演奏したのは3組のアーティストだ。まず GEM ことグルーポ・エキスペリメンタル・ヂ・ムジカ。2003 年サンパウロ州南部のサント・アンドレ市で結成された 6 人組のパーカッション・グループ。ステージに並んだ自転車のホイールや扇風機のプロペラ、ドラム缶といった創作楽器が圧巻だ。彼らの演奏はテーマ曲ともいえるリコーダーの演奏をはじめ作品中随所に使われており作品の個性を印象づけている。

続いてボディ・パーカッション＆コーラス・グループの

バルバトゥーキス。1995 年に結成された男女混合 12 人編成のユニットである。海外公演も多く、2011 年にはロナウドが出演したナイキの CM ソングに採用されている。ブラジルの公用語であるポルトガル語のイントネーションを活かした人間の声を用いたことにより、電子楽器では決して表現できない味わいを生み出した。

そしてブラジルが生んだ偉大なパーカッショニスト、ナナ・ヴァスコンセロス。カポエイラで用いられるビリンバウという民族楽器を片手に、パット・メセニーやドン・チェリーといったジャズ界の大物と共演、国際的な活躍をしている。動物の鳴き声や雨や鉄道の効果音は彼の演奏によるものだ。

エンディング・テーマを歌うのはサンパウロの若手 No.1 ラッパー、エミシーダ。2005 年頃よりサンパウロのヒップ・ホップ界で開催されていたバトルで勝ち続け旋風を起こした。昨年発表した新曲『ボア・エスペランサ』のビデオクリップは、ブラジルにまだ残る人種差別問題をテーマに映画並みのクオリティで制作、関係者を驚かせた。

映画『父を捜して』公式ホームページより

［講　演］　山村浩二氏　（アニメーション作家・絵本作家）

1964 年生まれ。東京造形大学卒業。90 年代『カロとピヨブプト』『パクシ』『バベルの本』など子どものためのアニメーションを多彩な技法で制作。2002 年『頭山』がアヌシー、ザグレブをはじめ世界の主要なアニメーション映画祭で 6 つのグランプリを受賞、第 75 回アカデミー賞®短編アニメーション部門にノミネートされる。『頭山』は、アヌシー国際アニメーション映画祭が選ぶ「アニメーションの一世紀 100 作品」、「ASIFA50 周年記念アニメーションベスト 50」に選出される。また『カフカ 田舎医者』がオタワ、シュトゥットガルトなど7つのグランプリを受賞。世界 4 大アニメーション映画祭すべてでグランプリを受賞。2010 年文化交流使としてカナダで活動。2011 年『マイブリッジの糸』をカナダ国立映画制作庁とアジア初の共同制作。大藤信郎賞、広島での2度のグランプリ、文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞5回受賞など、国内外で 90 以上の賞を受賞。DVD 作品集は日本、フランス、アメリカ、カナダ、韓国で発売されている。
『ぱれーど』（講談社）、『ちいさな おおきな き』（文：夢枕獏、小学館、第 65 回小学館児童出版文化賞受賞）、『くじらさんのーたーめならえんやこーら』（文：内田麟太郎、鈴木出版、第 22 回日本絵本賞）、『ながいでしょ りっぱでしょ』（文：サトシン、PHP 研究所、ホワイト・レイブンス 2016）、『怪物学抄』（河出書房新社）など絵本作家としても活躍。『くだもの だもの』『おやおや、おやさい』『おかしなおかし』（共に文：石津ちひろ、福音館書店）はシリーズ累計 50 万部を超えるロングセラー。
2013 年よりアニメーションストア＆ギャラリー Au Praxinoscope（オープラクシノスコープ）を開設。
2012 年第 30 回川喜多賞受賞、2017 年プルシネラ特別賞他、日本、アメリカ、ドイツ、セルビア、イタリアで 7つの功労賞受賞。
映画芸術科学アカデミー会員、日本アニメーション協会副会長、ASIFA 日本支部理事、ヤマムラアニメーション有限会社代表取締役、東京造形大学客員教授、東京藝術大学教授。

公式ホームページより

＜次回上映会のお知らせ＞

『お　盆　の　弟』

2017年9月3日（日）

上映時間　①11：00～
②14：00～

大崎章監督　舞台挨拶

ロビー交流会：13：00 ～ 13：30

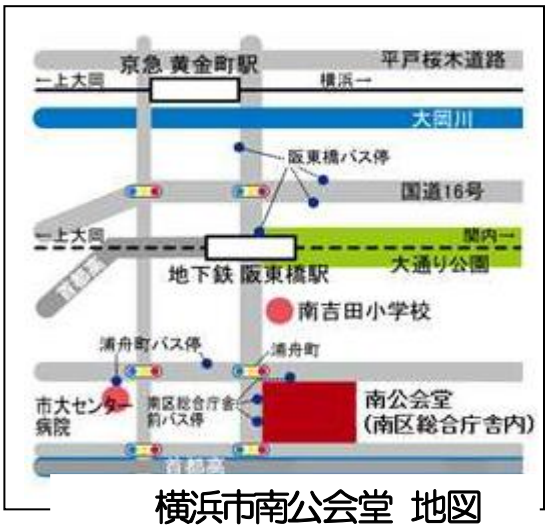
〔入場料〕

前売 1,000円　　当日 1,300円
障がい者 1,000円　(介助者１名無料)

〔会 場〕

横浜市南公会堂　045-341-1261

横浜市営地下鉄「阪東橋」駅下車　徒歩８分
京浜急行「黄金町」駅下車　徒歩１４分



横浜市南公会堂 地図

2015年/日本/モノクロ/ 107分/ブルーレイ上映
監督：大崎章　　脚本：足立紳
出演：渋川清彦、光石研
岡田浩暉、河井青葉、渡辺真起子
田中要次

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう！

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年５月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一歩でも近づけたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年 4 回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報

発行：横浜キネマ倶楽部

〒231－0012　横浜市中区相生町1の15
第2東商ビル4階－C　労働市民法律事務所
気付
TEL:080－8118－8502　(10時～18時)
Eメール:yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp
HPアドレス:http://ykc.jimdo.com